

日本海軍航空隊による重慶無差別爆撃

中国抗戦の首都への戦略爆撃

1938年(昭13)12月から43年まで昼夜連続攻撃で延べ200回以上、中心街を炎上壊滅させ、死傷者2万人余に及ぶ。

特に40年5月から9月に112日間の連続空襲で、世界最初の「絨毯(じゅうたん)爆撃」(地域を決めて隙間なく徹底的に爆撃する)と言われている。



日中戦争期の日本軍の中国に対する空襲			
年	回数	機数	投下爆弾数(焼夷弾)
1937	1269	2254	10740
1938	2335	12512	36124(13623)
1939	2603	14138	58412(1762)
1940	2069	12767	47566(2552)
1941	1858	12211	43308
1942	828	3279	12435
1943	664	3543	12349(1293)
1944	917	2071	16652(614)
1945	49	131	3718
総計	12592	62906	241304(19844)

資料出典:「全国空襲犠牲者追悼会」報告書『中国対日戦争損失之估計』(中華書局、1946年)

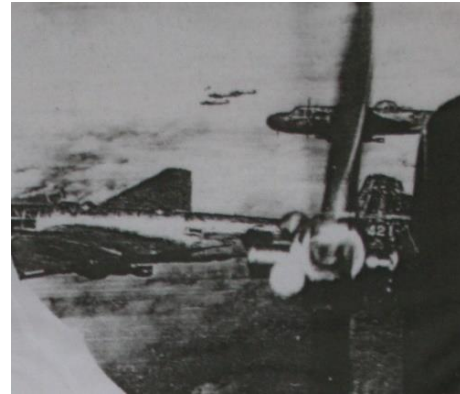
何故、無差別爆撃か

日中戦争が泥沼化し、地上戦で中国政府に降伏を迫れないので、抗戦首都を壊滅させて戦争終結をはかろうとした。

爆撃指揮官の・・・中国政府が屈服し、民衆が負けたと言うまで攻撃せよ」と言う言葉は爆撃の意図を示している。



重慶の地下の機関銃組み立て中国軍工場



海軍爆撃隊の主力、九六式陸上攻撃機。時速415Km、航続距離6227Km、爆弾搭載量800Kg

無差別爆撃の第一歩は南京空襲

1937年(昭12)8月15日の第1撃空襲から12月13日の南京占領まで日本海軍の九六式陸上攻撃機が南京を2日に1回、延べ600機、100回を超える爆撃を九州から海を渡って行い、初め爆弾で破壊し、次に焼夷弾で焼き払ったし、毒ガスも使った。

この陸上攻撃機は山本五十六が第1航空戦隊司令官に就任(33年)して、陸上基地から敵艦隊を攻撃するために開発促進したもので、(アメリカとの対戦を考えた機種と言われる)36年完成し、実践でテストするために南京渡洋爆撃を実施した。



日本はアメリカの日本都市の無差別爆撃非難の前に何かなされるべきか

ドイツはゲルニカ(スペインの都市)無差別爆撃の日に大統領が、ドレスデン(ドイツの都市)無差別爆撃の日にイギリス女王が謝罪した。

関連ホームページ

YouTube 重慶爆撃

<https://www.youtube.com/watch?v=VUfyQVQ5xEc>

